



オアシス

文責：学 長
桑 原 雅 次

出雲芸術アカデミーだより 2024年6月27発行 第72号

例年より梅雨入りが遅く、我が家の箱庭の植物たちも悲鳴をあげているように感じられましたが、先日ようやく梅雨入り宣言となりました。これから豪雨災害が心配されるところですが、恵みの雨程度で収まるように祈るばかりです。

先日、現職の中学校長と懇談する機会がありました。その話題の中に、学校現場にも AI の影響が出始めていることが気になりました。願書や作文を AI が作成したものを提出する傾向が多くなり、見抜くこともですが、子どもとの信頼関係にまで及ぶことが危惧されているという事でした。便利になる事もいいですが、人間の能力そのものが退化していくことが心配になります。

IZUMOpera コーナー

※公演及び各事業の PR コーナーです！

●「出雲フィルハーモニー交響楽団」定期演奏会が迫る！

7月15日、海の日に開催される第26回定期演奏会がいよいよ迫ってきました。その定期演奏会に向けて、それぞれの立場の方々が行動し公演の成功に向けて努力をしています。その様子を一部ですがお知らせします。

◆指揮者とコンサートマスターが真剣勝負！

今回の定期演奏会で演奏される曲目の細分析を、両者が真剣な眼差しでわたりあっている姿に遭遇しました。あまり見かけない光景かもしれませんが、指揮者の意図をコンサートマスターと意見を交わすことにより両者の気持ちが共有され、合奏に向けて素早く他の演奏者に伝わるよう時間をかけて準備されているのだと理解しました。演奏の核になる両者が一丸となればブレのない曲構成となり、一体感のある演奏につながるものと確信いたしました。ここに、公演成功に向けてのキーワードに接した瞬間でした。

◆積極的な自主練習に意気込みを感じる！

ある日、アカデミー事務局で作業をしていると、講座をしている時間帯でもないのにアンサンブルの音が聴こえるので音のする部屋を覗いてみると、この度の定期演奏会に出演されるホルン奏者の面々が自主的に集まって合わせておいででした。市民オーケストラならではの光景かもしれませんが、それぞれが時間の都合をつけ集まり、「練習しないとうまくなれないので…」等の謙遜の言葉がありましたが、実際に演奏されている音には迫力があり、真剣そのものの姿勢に公演に向かう意気込みを感じたところです。

◆ジュニアコーラスも意欲的に練習！

今回の定期演奏会の2部では、歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」において、本アカデミーの「ジュニアフィル・コーラス」も合唱団の一員として演目に応じて参加し

次ページへ

ます。出フィルオペラ合唱団の構成は、本アカデミーの「アクティング・クワイア」が母体となり、北九州シティオペラからも9人の方々が加わっていただきます。ジュニアコーラスの面々もオペラへの参加に意欲的で、練習にも熱が入っている様子がうかがえました。

◆オーケストラの弦楽器分奏と管打楽器分奏でそれぞれが再確認！

合奏をする前に弦楽器と管打楽器がそれぞれ分奏を実施することは、合奏では気づかなかったことや曲の仕組みをより細部にわたり知ることができ、精密な合奏の構築には欠かせません。それぞれの分奏にも指揮者から懇切丁寧な指示があり、各パートも呼応するように答えながら見る見るうちに仕上がっていくのが感じられました。

◆オーケストラに初めてソリストが加わる！

交響曲とオペラが今回の大きなテーマとなっていますが、オペラについては、オーケストラの演奏に9人のソリストと村人役の合唱が加わります。それぞれが別々に練習を積み重ねていますが、この度、初めてオーケストラにソリスト（1人）の参加が実現し、オペラの仕組みや内容を細部にわたって確認することができました。本番へ向けて少しずつ全体像が認識出来るようになってきているようです。

◆事務局スタッフも準備万端！

公演を成功させるには、演奏者だけでは成り立ちません…。演奏メンバーの招集から滞在期間の連絡調整、本番へ向けての練習計画、楽譜の準備、本番会場との打ち合わせ、公演に向けての諸会議調整、等々挙げればキリがありません…。事務局スタッフも頑張っていますので、関係者が一丸となり定期演奏会が盛会となるよう支えあいながらいきましょう！

フォトギャラリー

